ottobock.

オットーボック製品 取扱説明書

製品名：リジッド型モジュラー車いす
ベンタス
（Ventus）

品番 480A25=00000

2013 年 6 月版

はじめにお読みください

本書は、ご家庭、施設、職場などで「ベンタス」を使用される方、または介助者の方に読んでいただくものです。使用の前に、この取扱説明書を良くお読みになり、内容を充分にご理解お願い致します。　また、お読みになった後、手元に保管し、身体状況に変化があった場合、使用に関して不明な点がでた場合などは、必要に応じて繰返しお読みください。

この取扱説明書に従って使用いただけない場合、利用者や、介助者が事故を起したり、ケガをする恐れがあります。

＊本製品は、本書の説明の内容ならびに、使用目的に従って使用された場合にのみ、保証の対象となります。

本書は弊社のホームページからも PDF の形式でダウンロードできます。本書の内容に関してのご質問は、お買い上げいただいた販売店にご連絡ください。

目　次

1章　はじめに　2頁
- 1．1　序文
- 1．2　使用目的
- 1．3　適応範囲

2章　各部の名称　3頁

3章　安全にお使いいただくために　4頁
- 3．1　記号の意味
- 3．2　総合的な安全に関する注意事項
  - 3．2- 1　車載について
  - 3．2- 2　不整地や障害物がある場所、および介助に関しての危険
  - 3．2- 3　乗車・降車に際しての危険
  - 3．2- 4　走行に際しての危険
  - 3．2- 5　火・熱または過冷却による危険
  - 3．2- 6　手の負傷の危険
  - 3．2- 7　車いすの破損についての注意

4章　納品と使用準備　8頁
- 4．1　納品
- 4．2　使用準備

5章　車いすの収納／運搬、移乗について　10頁
- 5．1　車いすの収納
- 5．2　車いすの移乗について

6章　各部の使用方法（オプションも含む）　13頁
- 6．1　フットサポート／フットパネル
  - 6．1．1　カーフバンドの取付け／取外し
- 6．2　シートクッション／バックサポートカバー
  - 6．2．1　シートクッションの取付け／取外し
  - 6．2．2　バックサポートカバーの取付け／取外し
- 6．3　サイドパネル
  - 6．3．1　プラグオンアームサポート付きサイドパネルのアームサポートの高さ調整
  - 6．3．2　サイトパネル“標準仕様”、サイドパネル“クロージングプロテクター”
  - 6．3．3　パイプ式アームサポート
  - 6．3．4　サイドパネルの折りたたみ
- 6．4　プッシュハンドルの高さ調整
- 6．5　後輪（ホイール）の脱着
- 6．6　ブレーキ
  - 6．6．1　ブレーキをかける／はずす
- 6．7　転倒防止装置
- 6．8　ティップアシスト
- 6．9　車軸延長
  - 6．9．1　2本車軸（ハンドバイク用オプション）
  - 6．9．2　単純車軸（常に車軸を後方に設置する）

7章　メンテナンス、清掃と消毒　20頁
- 7．1　メンテナンス
- 7．2　清掃と消毒

8章　テクニカルデータ　21頁

9章　オットーボック社製品の保証条件　22頁

１０章　再利用情報　23頁

１章　はじめに

１．１ 序文

この度はオットーボック社の「ベンタス」をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
モジュラー車いす「ベンタス」は日常的な使用をはじめ、室内および屋外や不整地などでの移動に使用いただけます。車いすを使用になる前に、必ず３章「**安全にお使いいただくために**」および４章「**納品と使用準備**」をお読みください。
６章「各部の使用方法（オプションも含む）」では、「ベンタス」の使用範囲を広げ、車いすを使用する利用者の身体や環境に合わせることができるいくつかの付属部品を紹介しています。

各利用者の車いすが、本書で図解したモデルと異なる場合や本書に記載された付属部品が使用できない場合があります。

１．２ 使用目的

モジュラー車いす「ベンタス」は、主に歩行ができない、もしくは困難な方が車いすで移動、および生活をするために、利用者だけで、または介助者の介助により、室内外で使用していただく車いすです。

⚠ 注意	● 記載されている「使用目的」以外で使用した場合の事故および故障などは保証の対象となりません。

１．３ 適応範囲

以下のような症状により、日常生活において歩行ができない、または困難な方に適応し、移動補助機器などとして使用いただけます。

・麻痺、不随（対麻痺・四肢麻痺）のある方
・四肢欠損（下肢切断）の方
・四肢不随・変形のある方
・関節拘縮・障害のある方
・筋肉・神経系障害のある方
・心臓・循環器不全、平衡感覚障害などの病気をお持ちの方

上肢の残存機能がある方などに対しては、自力で車いすを操作することができるように設計されています。
個々の適応に関しては以下の点に留意してください。
・体の大きさ、体重　　（耐荷重ベンタス 100kg）
・身体、および精神状態
・生活環境
・周囲の人々などの人的環境

⚠ 注意	● 上記の状況や条件に変化が生じた場合には、すぐにお買い上げいただいた販売店にご連絡ください。

２章　各部の名称

ベンタス

1. シート／シートカバー
2. サイドパネル
3. バックサポート／バックシート
4. プッシュハンドル
5. バックパイプ
6. 車軸受け
7. ハンドリム付きホイール（後輪）
8. 車軸クイックリリースボタン
9. ティップアシスト（オプション）
10. 転倒防止（オプション、写真は収納時）
11. キャスター
12. キャスターフォーク
13. フットプレート
14. キャスター軸受け
15. フレーム
16. ブレーキ

ベンタスはモジュラー式のオープンフレーム型固定フレームの車いすです。[写真１]
一体型のフレームは１枚式フットサポート又はパイプ式フットサポートでつながっており、軽量でありながら高い剛性を提供いたします。フレーム構造は座高、座角、重心位置そして下腿長の変更が可能です。
ストレート、内オフセット、外オフセットの３種類のフレーム形状が選択可能です。

3章　安全にお使いいただくために

3．1 記号の意味

⚠ 警告

警告
取扱いを誤ると、「人が死亡又は重症などを負う可能性が想定される」ことを警告する表示です。

⚠ 注意

注意
取扱いを誤ると、「人が傷害を負う可能性、または物的損害の発生が予測される」ことを注意する表示です。

アドバイス
守っていただきたいこと、また、知っておくと便利な事項の表示です。

3．2 総合的な安全に関する注意事項

⚠ 警告

- はじめに取扱説明書（以下本書）をよくお読みください！使用の前に、「製品の操作と機能」についてよく理解してください。次に、それぞれの操作ができるかどうか確認し、必要に応じて練習してください。記載事項を守っていただかない場合、利用者自身の安全を損なう可能性があります。

⚠ 注意

- どのような場合においても状況により事故がおこる可能性があります。利用者だけでなく、介助者の方も安全に関する事項について日頃から充分にご留意ください。
- ご質問、または本書を読んでも問題が解決されない場合は、お買い上げいただいた販売店にご連絡ください。
- お子様および成人前の利用者に対する製品の使用方法については、お買い上げいただいた販売店または保護者の方から本書を使用してご説明ください。
- 車いすは利用者に合せて適合されています。納品後の調整については、お買い上げいただいた販売店にご連絡ください。最適な使用を長期間保証するため、定期的な車いすの調整を推奨します。特にお子様や青少年に対しては、６ケ月毎の調整が推奨されます。
- 包装材料は乳幼児の手の届かないところに保管してください。口に入れたり頭からかぶるなどして窒息のおそれがあります。

3．2- 1　車載について

⚠ 警告

- 利用者が車いすに乗ったままで車載を行う場合は、車いす固定ベルトや固定装置などを必ずご使用ください。車載する車種により固定の方法が違う場合がありますので、車載につきましてはドライバーおよび専門の方にご相談ください。また、車いすに固定ベルトなどを付ける場合、フットサポートなど取外し機能のある部分には取付けないでください。ベルトが外れて思わぬ事故につながる恐れがあります。また、必要に応じて車載用のアンカーポイントキットなどを別途お求めください。ベンタスは、利用者が乗ったままでの車載には適していません。

3．2- 2　不整地や障害物がある場所、および介助に関しての危険

⚠ 警告

- **介助なしでの転倒の危険**　階段では必ず介助を受けてください。スロープやエレベーターなどの設備がある場合、それらの設備を使用してください。そのような設備が無い場合には、介助者二人が持ち上げて階段を昇降したり、大きな段差などを乗越えてください。利用者が一人で階段を昇降したり、大きな段差などを乗越える場合、転落や転倒など重大な事故につながるおそれがあります。
- **車いすの勝手な走り出しによる傷害の危険**　平らな場所および平らでない場所での、乗り移り（例えば車へなど）の際には必ずブレーキをかけ、車いすを固定してください。車いすを使用していない場合でも必ず車いすのブレーキをかけてください。屋外などでは、路面状況や強い風により、車いすが動き、予期せぬ事故につながるおそれがあります。
- **間違った持ち上げ方による転倒の危険**　介助者は、車いすを持ち上げる際、フレーム本体の固定された部分のみ（例えば、座面下の側面フレームなど）を掴んでください。フットプレートや、後輪などは持たないでください。外れて車いすを落とすなど、重大な事故につながる恐れがあります。また、高さ調整付プッシュハンドルの場合、そのハンドルのレバーがしっかり締められていることを確認してください。
- **転倒防止装置の調整ミスによる転倒の危険**　階段を昇降する場合、転倒防止装置が階段に引っかかるなどし、重大な転倒事故などが起こる可能性があります。昇降前に、転倒防止装置が階段に接触しないように収納してください。昇降後、転倒防止装置を再び正しい位置に戻してください。
- **リフト使用の際の転倒の危険**　リフトを使用して利用者を車いすに乗せる場合、リフトの下で車いすを傾けた時に、転倒防止装置が移乗動作の邪魔にならない区域にあることを確認してください。引っかかる、もしくは車いすの傾斜が充分に取れない場合など、直接および間接的な事故につながる恐れがあります。
- **キャスターや後輪による危険**　踏切や溝などのある所ではキャスター等が溝にはまり、予期せず車いすが動かなくなり重大な事故につながる恐れがあります。不整地や溝がある所では充分に注意し、踏切等を通過する際には、時間に余裕を持って行動してください。
- **坂道や駅のプラットフォーム等での危険**　坂道の途中で停止する際は必ずハンドブレーキまたは介助ブレーキをかけてください。また、道路や駅のプラットフォームなどは平らに見えても勾配がありますので、停止される際は必ずブレーキをかけてください。急に車いすが動きだし、転落や転倒などにより死亡や重大な事故につながる恐れがあります。また、プラットフォームや信号待ちなどの際には、介助者は利用者からできるかぎり目を離さないようにし、ブレーキがかかっていることを確認してください。
- **介助者が車いすを離れる際の安全確保**　介助者が利用者を乗せた車いすから離れる場合は周囲の安全を確認し、必要であればブレーキをかけてから離れてください。特に屋外では安全な場所まで移動し、必ずブレーキをかけてから移動してください。

3．2- 3　乗車・降車に際しての危険

⚠ 注意

● **足台に体重をかけての乗車による傷害の危険**　乗車、降車の際には必ず駐車ブレーキをかけてください。可能な限り、車いすの横から移乗してください。フットプレート上に体重をかけて移乗すると、車いす本体が傾き、転倒するおそれがあります。

3．2- 4　走行に際しての危険

⚠ 警告

● **皮膚の状態が正常でない場合の合併症の危険**　皮膚の状態が正常でない場合、もしくは、免疫力が極端に低下している場合などに車いすを使用すると、皮膚が赤くなったり褥創などを引起こす可能性があります。臀部、背や大腿の裏側など、部分的に長時間負荷のかかる部位の皮膚の状態は、車いす使用の前に特に入念にチェックしてください。医療的傷害、または身体状況に関連して発生した健康上の被害については、賠償義務を負いません。

● **車いすで段差を乗越える際および不整地などでの危険**　段差のある場所や不整地では、障害物などにより予期せず車いすが前のめりに傾き、車いすから転落する恐れがありますので注意してください。

⚠ 注意

● **未経験者の事故の危険**　車いすを初めてお使いになる利用者は、まず初めに平らな、見通しの良い場所で車いすの取扱いを練習してください。傾斜のある道、上り坂、全ての勾配、または障害の乗越えなどについては、必ず介助者の補助のもとで車いすの操作方法を確認してください。車いすの取扱いに慣れていない場合、転倒やその他の危険な状況をもたらす恐れがあります。
初めての利用者は、車いすに転倒防止装置をつけて使われることをお勧めします。

● **重心の延長による転倒、もしくは後転の危険**　（車いすの前方、側方、後方にある）物を取る時には、車いすよりあまり過度に身を乗り出さないようにしてください。重心のバランスが崩れ、転倒するなどの恐れがあります。
車いす上で前傾姿勢を取る必要がある場合は、キャスターが前にでるように車いすを少し後方に移動させ、車いすを安定させてください。

● **障害（段差や縁石）の乗越えの際の転倒の危険**　車いすを減速しないまま縁石を乗り越えたり、段差から飛び降りたりすると、利用者の事故だけでなく、周りにいる人の事故や物の破損などにつながる恐れがありますので、絶対に避けてください。また、公道を走行する際には、車いす利用者としての交通ルールに従ってください。障害（段差や縁石）の乗越え、スロープを上る際には上半身を前方に傾けるか、介助者が後ろから車いすをサポートしてください。
障害（段差や縁石）の乗越える際にはキャスターを上げて障害物に対して正面から乗り越えてください。

● **固定ブレーキの誤使用による傷害の危険**　タイヤに接触するブレーキは、固定用ブレーキとして設計されています。固定用ブレーキは、走行中のブレーキとして使用しないでください。車いすの急ブレーキは転倒を引きおこす恐れがあります。

● **暗闇の中での走行による傷害の危険**　暗闇の中では、車や通行人の目に付きやすいように、明るい服または反射板の付いた服を着るようにしてください。車いすの側方や後方などのよく見える部分に、適切な反射板を取付けてください。照明装置（照明用ライト）を取付けることもお勧めします。

● **坂道での転倒の危険**　坂道では、減速して走行してください。スピードが出すぎることで転倒などの事故につながります。

● **不意の後輪脱落による転倒の危険**　後輪のクイックリリース軸が常にしっかりと取付けられているか確認してください。クイックリリース軸のボタンが押されていない状態で後輪を取外さないでください。

⚠ 注意

● **過低圧・過高圧のタイヤによる事故の危険**　ブレーキの利きや全体としての走行状態は、タイヤの空気圧に依存し、充分な空気圧と適切な調整によってのみブレーキが正しく働きます。
走行前に、タイヤを正しい空気圧にするように気をつけてください。適正な空気圧はタイヤに印刷されています。高圧タイヤの場合は7気圧（700kPa）、標準タイヤの場合3.5気圧（350kPa）を維持してください。また、左右の後輪が均等に適正な空気圧になることで、軽くそして快適に操縦することができるようになります。

3．2- 5　火・熱または過冷却による危険

⚠ 警告

● **極度の気温での注意**　車いすは直射日光の当たる場所やサウナの中などでは、非常に高温になることがあります。また、極度の低温では過冷却の危険があります。その様な条件下でフレームなどに接触した場合、重大な身体的事故につながる恐れがあります。

⚠ 注意

● **火の取扱いにおける火傷の危険**　座面と背もたれのカバー素材は、引火することがあります。あらゆる火の元、特にタバコの火には気をつけてください。

3．2- 6　手の負傷の危険

⚠ 警告

● **手の負傷の危険**　車いすを操作する際には、車輪とブレーキの間に手をはさまないように注意してください。後輪スポークを掴んだり、手を入れないでください。また、手や指を、車いすのブレーキレバー、サイドパネル、フレームなどの部位にはさむ危険があります。車いすの折りたたみの際には、手や指のはさみ込みに充分ご注意ください。

● **摩擦による火傷の危険**　特に軽金属のハンドリムを使用している場合、高速で走行している際や長い坂を下っている際にブレーキをかけた時、摩擦により指などが熱く感じられることがあります。屋外での走行には、指を火傷や汚れから守る皮手袋等を使用して、しっかりとグリップを保つようにしてください。

3．2- 7　車いすの破損についての注意

⚠ 注意

● **磨耗による損傷**　車いすの座面や背面は、摩擦により擦り切れる可能性があります。破れや磨耗などに気がついた場合は、安全のためすぐに交換するようにしてください。

● **バックサポート折りたたみ時の取扱い**　バックサポートを折りたたんだ状態の車いすの上には重いものを絶対に置かないで下さい。フレームなどの変形や、車いすを正しく開くことができなくなる可能性があります。

● **海水や砂地などでの取扱い**　車いすを塩水（海など）の中で使用しないでください。また、車輪のベアリングを破損する可能性がありますので、砂やその他の埃をできるだけ避けてください。

アドバイス

● **重量超過による破損**　ベンタスの最大耐荷重は 100kg です。大量の手荷物などがある場合にはご注意ください。また、ご自身の体重を常にチェックされることをお勧めします。オプションや取付けられた部品も荷重に含まれますのでご注意ください。

4章　納品と使用準備

4．1 納品

納品時に含まれる製品は、以下となります。

・車いす本体
・リヤホイール
・取扱説明書（本書）

ベンタスの標準仕様には以下のものが含まれます。
（オプションを付けた際には、含まれていない製品もあります。）

・アルミ製フレーム（オープンフレーム）とキャスターホルダー
・折りたたみ可能なバックサポート
・アルミ製の一枚式フットサポート & サイドパネル
・張りの復元が可能なナイロン座面シート
・クイックリリース軸付きの後輪
・前後、上下の位置調整が可能な後輪アダプター
・駐車ブレーキ（固定用ブレーキ）
・ネジ式標準キャスターフォーク付きキャスター（キャスター角度調整可能）
・プッシュハンドル

クッションは、標準仕様には含まれません

標準仕様は、さまざまなオプションを付けることにより、利用者の個々のニーズに適合させることができます。これらのオプションの使用方法は 6 章 13 ページ以降をご覧ください。

車いすは、折りたたまれて、後輪が外された状態で納品される場合があります。そのような場合は、以下の手順で組立ててください。また、この組立て方法は、車載する時など車いすをコンパクトにするためにも必要な手順ですので良くお読みください。後輪が付いた状態で納品された場合でも、組立て方法を練習されることをお勧めします。

⚠ 注意	● **組立の際の危険**　折りたたんだり、広げたりする時には、「4.2 使用の準備」の説明で指示された部分だけを持ってください。後輪を組立てた時は必ず適切な取付け状態であるかをチェックしてください。車軸アダプターに必ず車軸がしっかりとはめ込まれていなければなりません。特に、安定性、後輪の軽快な走行性、ブレーキが正しく機能するかについて注意を払ってください。

4．2 使用準備

1）バックサポートを起こす［写真２］
バックサポートのロック機構が解除されるまで、バックサポートのワイヤーを引いてください。
バックサポートのロック機構が両側の固定穴にしっかりはまるまで、バックサポートを起こしてください。

2）折りたたまれたサイドパネルを開く
サイドパネルを 90° 外側へ開いてください。［写真３］
サイドパネルをサイドパネルの受けに押し入れてください。
［写真４］

オプションのカーフバンドを使用される場合はキャスタホルダーの上のフレームに取り付けてください。
（13 ページ参照）

3）**タイヤの取付け**
後輪タイヤの取付けの際には、４本の指でスポークを持ち、指でクイックリリースのボタンを押し込んで［写真５］、車軸を車軸受けに対して真っ直ぐに差込んでください。車輪を適正に差込むと自動でロックがかかります。

※ロックがかかっていて抜けないことを、ボタンを押さない状態で後輪を引いて確認してください。

4）クッションを置いてください。［写真６］
※クッションを置かずに使用することは避けてください。
クッションはベルクロファスナーによって固定することができます。

⚠ 注意	● **転倒の危険**　後輪は利用者の身体状況に応じて希望された位置に設定されています。設定位置の変更などがあった場合、利用者による使用の前に、専門家による安全な介助のもとで、転倒に対する安全性や機能についてチェックしてください。

５章　車いすの収納／運搬、移乗について

５．１ 車いすの収納／運搬

⚠ 注意	● 車いすは乾燥した状態で収納する必要があります。環境温度は、必ず－ 10℃～＋ 40℃の間を維持してください。ＰＵタイヤ（ノーパンクタイヤ）の場合、タイヤに変形が生じる可能性があるため、ブレーキを固定している状態で長時間収納しないで下さい。タイヤには他の化学物質（洗剤、酸など）と反応する可能性のある化学物質が含まれています。

⚠ 注意	● **手の負傷の危険**　車いすの折りたたみの際には、手や指のはさみ込みに充分ご注意ください。

折りたたみ式パックサポートを使用することで下記の手順にてベンタスを小さく折りたたみ、車のトランクや助手席に乗せて運ぶことが可能です。

1）サイドパネルを折りたたみます。[写真７]
サイドパネルを受けから外し、内側へ折りたたみます。

2）シートクッションを取り外します。

3）後輪を取り外します。
クイックリリース軸のボタンを押して[写真８]、後輪を軸受から取り外します。

4）バックサポートを折りたたむ。[写真９]
バックサポートのワイヤーを引いて、ロック機構を解除し、パックサポートが固定穴にしっかりはまるまで、パックサポートを倒してください。

5）折りたたんだ車いすを車等に積み込んでください。
[写真 10]

５．２ 車いすの移乗について

以下に車いすの利用者ご自身での移乗方法について記述します。ここでは車いすから車いすへの移乗方法を記載していますが、ベッド、イスなどからの移乗にも応用可能です。

1）車いすがお互いに 45° になるように操作し、車いす同士をつけてください。（ベッドなどからの移乗の場合はベッドに対して 45° の位置に車いすを置いてください。
（ブレーキ同士が絡まないようにご注意下さい。）
[写真１１]

2）現在乗っている車いすのブレーキをかけてください。

3）乗り移る先の車いすのブレーキをかけてください。

4）乗り移る車いすのフットプレートを上げてください。
[写真１２]

5）足をフットプレートの前へ下ろし、端座位をとってください。
（ベンタスの一番前に座ってください。）
[写真１３]

6） 車いすの移乗を行ってください。
（写真は、移乗の際、自分の体を支えることができる方の場合です。）
［写真１４］

7） 車いすのフットプレートを下ろし、フットプレートに足を乗せてください。

8） 車いすの固定ブレーキを解除してください。

＊この方法はあくまでも一例です。医療従事者などの方々と相談しながら、利用者にとって最適な方法を身につけていただくことをお勧めします。

⚠ 注意	● **転倒の危険**　端座位のとれない方、１人での移乗に不安をお持ちの方は、無理をせず介助者のサポートを受け、移乗を行ってください。
アドバイス	● 必要に応じてトランスボードやリフトなどをご使用いただくことで、介助者への負担を軽減できます。

６章　各部の使用方法（オプションも含む）

「ベンタス」はモジュラーシステムによってつくられています。このシステムにより、ご購入後も必要に応じて随時オプションを取付けることができます。

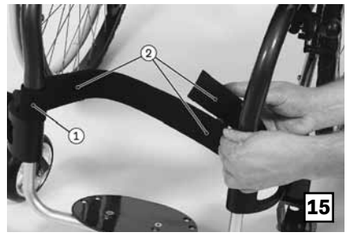
⚠ 注意	● ベンタスは、本書に挙げられているオプションとのみ組合わせてください。他の器具や他社の製品と組合わされて発生した、故障、破損事故などについては、責務を負い兼ねます。

６．１　フットサポート／フットパネル

⚠ 注意	● **転倒・転落の危険**　乗車、降車の際には必ず駐車ブレーキをかけてください。可能な限り、車いすの横から移乗してください。フットプレート上に体重をかけて移乗すると、車いす本体が傾き、転倒するおそれがあります。

６．１．１　カーフバンドの取付け／取外し

カーフバンドは清掃の際には取り外すことができます。



カーフバンドの取付け
カーフバンドをキャスターホルダーの上のフレームに巻き［写真１５-①］、ベルクロファスナーでカーフバンドを固定します。［写真１５-②］

カーフバンドの取外し
ベルクロファスナーの接着面をはがし、カーフバンドをフレームから取り外します。

６．２　シートクッション／バックサポートカバー

⚠ 注意	● **火の取扱いにおける火傷の危険**　座面と背もたれのカバー素材は、引火することがあります。あらゆる火の元、特にタバコの火には気をつけてください。
⚠ 注意	● **磨耗による損傷**　車いすの座面や背面は、摩擦により擦り切れる可能性があります。破れや磨耗などに気がついた場合は、安全のためすぐに交換するようにしてください。

６．２．１　シートクッションの取付け／取外し

シートクッションと座シートカバー（張り調整シートの場合）は清掃のために下記の手順で取り外すことできます。

１）シートクッションを座シートから取り外します。［写真１６］

２）座シートカバーのベルクロファスナーの接着面を引き上げてカバーを外します。［写真１７］

３）清掃後に、座シートカバーを座シートに取り付け、シートクッションを座シートに戻します。（［写真１６］、［写真１７］）
その際、クッションのベルクロファスナー部分を座シートにしっかり取付けてください。

6．2．2　パックサポートカバーの取付け／取外し

バックサポートカバー（張り調整式）は清掃の為に下記の手順で取り外すことができます。

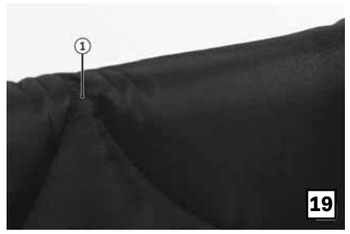
1）シートクッションを取り外してください。

2）張り調整可能な座シートカバーの場合は、カバーの後側を前方に折りたたんでください。[写真１８-①]

3）バックサポートカバーのバックサポートカバーの端の部分のベルクロファスナーを座シートより外し [写真１８－②]、下にぶら下げ、バックサポートカバーを取外してください。

清掃後は下記の手順で取付けてください。

1）バックサポートカバーの中の“V”の部分 [写真１９①] が折り山になるようにして、折り山を上にしてバックサポートカバーを戻してください。



2）バックサポートカバーのバックサポートカバーの端の部分をしっかり下に引っ張ってください。[写真２０]

3）フラップのベルクロファスナー部を前方に引っ張り、座シートにしっかり取付けてください。
ベルクロファスナーで取付けることによりバックサポートカバーをしっかり固定することができます。

4）座シートカバーやシートクッションを取付けてください。
[写真１８-①]

6．3　　サイドパネル

⚠ 注意	● **サイドパネルに手を挟む、または負傷の危険** サイドパネル、またはフレーム部分に身体部位を挟まないようにご注意ください。

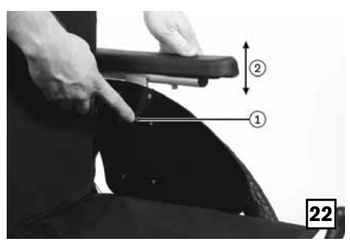
6．3．1　プラグオンアームサポート付きサイドパネル [写真２１] のアームサポートの高さ調整

プラグオンアームサポートは工具なしで高さを調整することができます。

1）サイドパネル内側にある高さ調整ボタンを押してください。
[写真２２-①]

2）希望する高さにアームサポートを動かしてください。
[写真２２-②]

3）高さ調整ボタンを離します。アームサポートが固有の高さにロックされます。



6．3．2　サイトパネル“標準仕様”、サイドパネル“クロージングプロテクター”

サイトパネル“標準仕様”（写真なし）、サイドパネル“クロージングプロテクター”[写真２３] は単体では高さ調節ができません。パイプ式アームサポートと一緒に使用することで高さ調節ができます。

6．3．3　パイプ式アームサポート

パイプ式アームサポート [写真２４] はお買い上げいただいた販売店によって、利用者に合せて調整されています。納品後の調整は必ずお買い上げいただいた販売店に依頼してください。

6．3．4　サイドパネルの折りたたみ

⚠ 注意	● **サイドパネルの誤使用による健康被害の危険**　サイドパネル取付け具が破損する危険があるため、サイドパネルはサイドパネル受けにしっかりとはめ込んでください。

移乗の際の跳上げ（例：サイドパネル“クロージングプロテクター”の場合

車いすの乗降をより容易にするため、サイドパネルの跳ね上げが可能です。

1）サイドパネルをサイドパネル受けから上へ引き抜きます。
[写真２５]

2）サイドパネルを約９０°跳上げてください。
[写真２６]

3）移乗後にサイドパネルを下して、サイドパネル受けに差込んでください。

運搬の際の折りたたみ
サイドパネルを内側に折りたたみ運搬することができます。
1）サイドパネルをサイドパネル受けから上へ引き抜きます。
［写真２７］
2）サイドパネルを内側へ９０°折りたたみます。［写真２８］
3）運搬後にサイドパネルを再びサイドパネル受けに差込んでください。

移乗、運搬の際の跳上げ、取外し（パイプ式アームサポートの取外し）
アームサポートを跳ね上げ、取り外すことで車いすの乗降り、運搬が容易になります。
1）パイプ式アームサポートを受けから持ち上げます。
［写真２９］
2）パイプ式アームサポートを９０°外側に回転させたり［写真３０］、取り外すことができます。
3）移乗、運搬後に再びパイプ式アームサポートを受けにはめ込んでください。

６．４　プッシュハンドルの高さ調整

高さ調整可能プッシュハンドル［写真３１］と、後オフセットプッシュハンドルは、介助者が車いすを押しやすい高さに調整することが可能です。プッシュハンドル固定式［写真３２］とフォールディングは高さ調整ができません。
1）クランプレバーを反時計回りに回して解除します。

2）プッシュハンドルの高さを調整します。

3）クランプレバーを時計回りに回し、しっかりとロックしてください。
両方のプッシュハンドルが同じ高さになるように調整してください。

６．５　後輪（ホイール）の脱着

⚠ 警告	● **手の負傷の危険**　車いすを操作する際には、車輪とブレーキの間に手をはさまないように注意してください。後輪スポークを掴んだり、手を入れないでください。

⚠ 警告	● **摩擦による火傷の危険**　特に軽金属のハンドリムを使用している場合、高速で走行している際や長い坂を下っている際にブレーキをかけた時、摩擦により指などが熱く感じられることがあります。屋外での走行には、指を火傷や汚れから守る皮手袋等を使用して、しっかりとグリップを保つようにしてください。

４．２の使用準備で説明されているように、後輪（ホイール）は簡単に取付け、取外しが可能です。

タイヤの取付け
後輪タイヤの取付けの際には、４本の指でスポークを持ち、指でクイックリリースのボタンを押込んで［写真５］、車軸を車軸受けに対して真っ直ぐに差込んでください。車輪を適正に差込むと自動でロックがかかります。

＊ロックがかかっていて抜けないことを、ボタンを押さない状態で後輪を引いて確認してください。

６．６　ブレーキ

⚠ 注意	● **ブレーキの誤使用**　固定用ブレーキは、走行中の減速ブレーキとして使用しないでください。車いすの急ブレーキは最悪の場合、転倒をひきおこす恐れがあります。車いすを使用中は後輪とブレーキの間を握らないでください。手を挟み込み、負傷する危険があります。正しいブレーキの調整間隔はタイヤに対して約５㎜です。（状況によっては間隔の値が前後する場合があります。）また、タイヤ圧が充分であることにも注意を払ってください。

６．６．１　ブレーキをかける／はずす

標準ブレーキ／標準ブレーキアップグレードの場合
1）ブレーキのハンドルを前方へ押すとブレーキがかかります。
［写真３３］

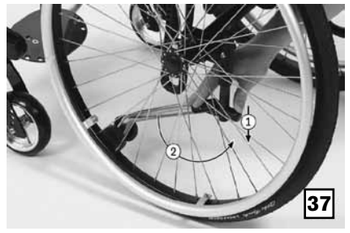
2）ブレーキのハンドルを手前に引くと、ブレーキが解除されます。
［写真３４］

シザーブレーキの場合
1）座シートの下のシザーブレーキレバーをサイドから後方へ引くとブレーキがかかります。［写真３５］

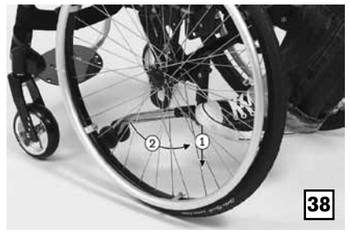
2）シザーブレーキレバーを前方へ押すとブレーキが解除されます。
［写真３６］

6．7　転倒防止装置

⚠ 注意	● **転倒防止装置の調整不全による転倒** 転倒防止装置がある場合は、乗車の前に正常に機能しているか、確認してください。転倒防止装置は、カチンと音がするまで固定されていなければなりません。使用の前に利用者または介助者が確認してください。大腿切断者がご使用になる場合は、転倒防止装置の取付けをお勧めします。



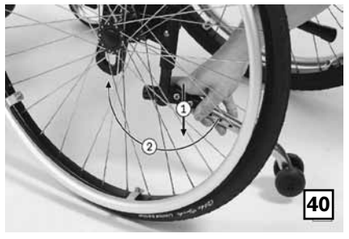
転倒防止装置の設置・折りたたみ
手や足を使用して転倒防止装置を折りたたんだり、設置することができます。
1）転倒防止装置を押し下げてください。
［写真３７-①］［写真３８-①］



2）転倒防止装置を回転させ、カチンと音がするまで回し、固定します。
［写真３７-②］［写真３８-②］

⇒転倒防止装置が設置されます。［写真３９］

3）転倒防止装置のつけ根を固定が外れるまで押し下げます。
［写真４０-①］［写真４１-①］



4）転倒防止装置を 180° 前方に回転させます。
［写真４０-②］［写真４１-②］

⇒転倒防止装置が折りたたまれます。［写真４２］

6．8　ティップアシスト

1）障害物の前で、ティップアシスト［写真４３］を下に踏込みます。
2）同時に、プッシュハンドルを下に押す（後へ引く）ことにより、車いすを簡単に後方に傾けることができます。

6．9　車軸延長

⚠ 注意	● 後輪を後方へ移動した後はサイドパネル“クロージングプロテクター”と後軸との間はわずかな隙間しかありませんので、間にものや指が挟まるおそれがあります。 ［写真 48］

6．9．1　2 本車軸（ハンドバイク用オプション）

⚠ 注意	● **通常のブレーキが機能しないことによる危険** ハンドバイク用オプションとして後輪を後方の軸受けに設置した場合には、通常のブレーキが機能しません。ハンドバイクでの走行の前には、必ずハンドバイクのブレーキが機能することを確認してください。

2 本車軸（オプション）はハンドバイクの取付けに使用されます。
［写真 ４４］

ハンドバイクの取り付け
前方の車軸受け［写真 ４５-①］から後方の車軸受け［写真 ４５-②］へ後輪を移動させます。
後輪を移動させた後は通常のブレーキは機能しなくなります。

6．9．2　単純車軸（常に車軸を後方に設置する）

単純車軸の車軸延長オプションを使用することで車いすがより安定するため、特に車いす初心者に適しています。利用者が常に大きいホイールベースを使用する際に、このオプションが使用されます。
［写真 ４６］

７章　メンテナンス、清掃と消毒

７．１　メンテナンス

原則として、毎回ご使用の前にブレーキの効きをはじめとする、車いすの動作機能については念入りに検査、点検をしてください。走行時の異常や車いすの不安定さなどの異常に気づいた場合には、直ぐに、使用を中止し、車いすをお買い上げいただいた販売店に連絡してください。１２ヶ月に一度、お買い上げいただいた販売店で、整備点検を行うことをお勧めします。下記に示したリストは、利用者（もしくは介助者）に定期的に行っていただきたい点検項目です。

点検項目	毎回乗車前	毎月	3ヶ月毎前
ブレーキの効き、動作確認	●		
座シート・バックサポートのたるみ		●	
フットサポート（足台）のがたつきや緩み		●	
磨耗部品の目視点検（タイヤ、軸受け等）		●	
車軸周りの汚れ（キャスター軸の毛髪の絡みつき等）		●	
ハンドリムの損傷（傷による突起等）		●	
タイヤの空気圧（タイヤ側面にある規定圧をご覧ください）		●	
折りたたみ機構の磨耗		●	
後輪のスポークの張り			●
ネジの状態（ナットが落ちていないか等）			●

車いすの機能を維持するために、利用者（又は介助者）は、以下の点を点検整備してください。

- キャスター（前輪）とキャスター軸の間は、毛髪や、汚れが詰まりやすい部分です。これにより、走行時の抵抗が高くなり、車いすの動きが重くなります。キャスター軸の周りのごみを取除き、中性洗剤などを含ませた布でキャスターをきれいに拭いてください。
- 後輪はクイックリリースシステムが装備されています。この動作機能を維持するため、クイックリリース軸や、軸受けにゴミや汚れがたまらないように注意してください。
- 車いすが水に濡れた場合には、水気をふき取り乾かしてください。
- 車いすが海水など塩分を含んだ水に濡れないよう、気をつけてください。また、砂や、細かい汚れが車軸受けなどに入らないよう、ご注意ください。海水に濡れた場合は、よく絞った布などで水ふきをしてください。
- 特に使用開始直後や、車いすの設定を変えた後などは、ネジの状態などに注意してください。もし、ネジが緩んでいるような場合は、自分で締めることはせず、できるかぎり販売店に相談してください。

⚠ 注意	● モジュラー車いすのネジは安全のため、締付ける強さがそれぞれの箇所で決まっています。的確な強さで締められていない場合、事故につながる恐れがあります。

７．２　清掃と消毒

クッション部やシート部は、ぬるま湯や家庭用洗剤を使用して清掃してください。シミなどはスポンジか、柔らかいブラシで取除いてください。最後に、水できれいに洗剤等を洗い流した後、濡れた部分を乾かしてください。

⚠ 注意	● 全ての車いすの部品は洗濯をしないでください。また洗濯機にも入れないでください。
❗	● 強い洗剤や、溶剤、硬いブラシなどはご使用にならないでください。

８章　テクニカルデータ

耐荷重	100 kg
車体重量（座幅 44cm、４インチキャスター　24 インチ中空リムの場合）	12.5 kg –
座幅	28 – 44 cm
座奥行き	30 – 50 cm

ここに上げられた数値は理論上算出された寸法です。全ての車いすで全ての設定が可能と言うわけではありません。同様に、設定の組合わせは、フレームの形態により、制限されることがあります。機械的差異としては、５％以内を保持しています。

9章　オットーボック社製品の保証条件

保証対象：
本取扱説明書にしたがって正しく使用された場合にのみ、保証の対象となります。
製品の保証内容は、保証書に記載されています。

製品の安全性：
この製品は EU の 93/42/EEC 規格の要綱を満たしています。また、それに伴い、自社および検査機関における安全性に関する適合試験を実施し、すべての検査要綱の条件を満たしていることを宣言します。

損害賠償責務：
製造元は、製品が定められた条件のもと、定められた目的に使用された場合にのみ責任をとります。
製造元は、製品が適切に、説明書従い使用され、点検されることをお勧めします。製造元が許可していないパーツや付属部品が原因の損害については、製造元は損害賠償責任を負いません。修理は、公認された販売店か製造元自身に依頼してください。

１０章　再利用情報

再利用と廃棄処理について

⚠ 注意	● **不適切な利用による危険**　シートユニットなど直接肌に触れる部分は、製品の再利用の際に、次に利用者される方に、機能上あるいは衛生上の危険を引き起こす可能性があります。再利用の際には、必要に応じてこれらの部品を交換してください。

廃棄について
磨り減った、または損傷した部品は交換、撤去してください。車いす（各種パーツを含む）を廃棄する場合には、廃棄の際は、地域の廃棄基準に従い廃棄してください。

サービスについて

オットーボック製品のサービスや修理は、販売店に依頼してください。適合などに不具合等がある際にも販売店にお問合わせください。

オットーボック社取扱店

掲載内容の無断使用禁止

掲載されている内容、文章、画像については、無断で使用もしくは転載することを禁止します。

オットーボック・ジャパン株式会社

〒108-0023 東京都港区芝浦4-4-44 横河ビル8F

TEL：03-3798-2111（代表） FAX：03-3798-2112

www.ms.ottobock.jp

© Ottobock · 647G828-DE_01 02 2013 · MS_IFU_U_480A25=00000